

実習報告（基盤実習）

## 主体的な学びの実現を目指した振り返りの研究

本山 星海（授業実践探究コース）

### 【探究実習のテーマと設定の理由】

平成30年に告示された新学習指導要領にて、「どのように学ぶのか」という「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う必要性を述べている。

学習指導要領の指導計画作成上の配慮事項では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について、「(中略)、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、(中略)学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること」と示している。加えて、菅原(2021)は、「振り返り」を通して自己課題をもつことは、次の活動の見通しをもつことに繋がり、「主体的な学び」と深く関わっている」と述べている。以上より、振り返りは主体的な学びの実現に有効であると考えた。

一方で、山田・清水(1997)が「振り返り」という活動は自発的な活動としては難しいという指摘が散見されている」と述べており、川和田(2002)はこれを踏まえ「授業場面や学習指導の中で、児童・生徒が『反省』を行えるように支援する場を意図的に作り出す必要がある」と述べている。また、ベネッセ教育総合研究所の調査結果から高校では「児童・生徒が学習を振り返る時間」を心掛ける教師は10.4%という結果があり、高校では授業内で学習を振り返る場面が設定されていない現状がある。

そこで、本研究では振り返り活動を授業内に設定することによって「主体的な学び」の実現を目指す。振り返り活動の目的は、学習指導要領にて示されている「自己の学習活動を振り返って次につなげる」こと、「数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する」こと、「学習の過程を振り返り、概念を形成する」ことを目的とする。

振り返り活動を行う上で、注目したものがOPPA(One page Portfolio Assessment)である。OPPAとは、学習の成果を、学習者が一枚の用紙(OPPシート)の中に、学習前・中・後の学習履歴として記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる評価のことである。この理論に着目した理由は、OPPAがポートフォリオ評価で課題となっていた「学習前の既存の知識や考え(素朴概念)が明確でないまま評価が行われていること」、「集めた情報が多すぎるため、適切な情報の選択が難しいこと」、「既存の知識や考えが曖昧なため、何がどこまで到達できたのかといった学習の成果が不明確になりがちなこと」を克服するものとなっているため、OPPAは、ポートフォリオ評価ではできなかった「自己の学習活動を振り返って次につなげる」ことや「学習の過程を振り返り、概念を形成する」過程を見ることができると考えた。しかし、OPPAは知識と知識の繋がりを理解するには不向きだと判断し、他の振り返り活動でこれを補う。それは、斎藤(2004)が提唱した山登り式学習法である。これは、「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「個性を生かす教育の充実」「創造的な人材の育成」を目的としている。山登り式学習法の意義として、「構造的・体系的な思考の実態」を活性化させることが出来る。故に、この2つの振り返りを活用しながら、研究を進めていく。

### 【探究実習の研究目標】

- ① 実習校の実態把握
- ② 授業力の向上

### ③振り返りを取り入れた数学授業についての研究の推進

#### 【探究実習の概要】

9月9日から1月24日までの間で、計20回実習に行った。実習内容は、高校1年生の数学の授業参観や、授業実践、行事の観察をした。これらの実習内容を通して、目標の達成を目指した。

#### 【探究実習の成果と課題】

探究実習の成果の1つ目は、行事や授業の参観・実施によって実習校の実態を知ることができた。行事では、体育祭のパネルや文化祭のムービー等、生徒自身が作成していた物を発表し、行事を盛り上げていた。授業中には、発問を用いて生徒の考えを引き出そうとする教員の様子が見られた。このように、生徒自身の主体性や創造性を育成する実習校の教育方針を参観を通して知ることができた。

また、成果の2つ目実践を通して授業実践の経験を積むことができた。実習校の生徒の学力や、生徒に適した発問を作ることに難を感じていた。今でも課題となる部分はあるものの、メンターの先生と授業作りをしていく過程で、授業作りに慣れてきたことは今回の実習における成果と言えよう。

成果の3つ目は、振り返りの実践ができたことである。今回、水上(2019)の研究を参考に授業実践を行った。今回の成果は、振り返り活動を行う上での教材研究の重要性を改めて理解できたことと振り返りを継続して行うことの大切さを理解できたことである。今回の実習では、振り返り活動を1時間分しか実施できなかった。故に、目的として挙げた「自己の学習活動を振り返って次につなげる」こと、「数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する」こと、「学習の過程を振り返り、概念を形成する」ことはできなかった。しかし今回の実習を通して、単元全体を通して学んだことを振り返ることが、目的の達成に必要なことであると気付くことができた。一方で、課題も見つかった。生徒の実態調査は上手くいったものの、生徒とのコミュにケーションに未だ難がある。生徒との人間関係作りは授業づくりの土台となるため、この課題は今後の研究につながる重要な課題である。加えて、授業力においても、現段階では研究を進める上では不十分であることや、振り返りの研究についてまだ不十分な部分があることも課題である。実際に振り返り活動を行ったが、目的に即した振り返り活動やOPPAの理論を用いた実践の経験は積むことができなかったことも本実習での課題である。

#### 引用・参考文献

- 川和田・生田(2002)「算数・数学の学習指導における反省的活動に関する考察」, 全国数学教育学会誌数学教育学研究, 第8巻, pp. 109-118.
- 斎藤昇(2004)「中学校数学科「山登り式学習法」入門: 生徒の数学的能力を高める授業づくり」, 明治図書出版.
- 菅原慧美(2021)「主体的な学びと「振り返り」の相互関係の考察」山形大学大学院教育実践研究科年報第12号.
- ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査 DATABOOK 高校版」  
[https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/Sido\\_KOKO\\_all.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/Sido_KOKO_all.pdf) (最終閲覧日 2023.1.26)
- 堀哲夫(2019)「新訂 一枚ポर्टフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性」, 東洋館出版社.
- 水上拓紀(2019)「学びの定着に効果的な振り返り活動の実践—振り返りシートの作成実践を通して—」, 山梨大学教育学部・大学院教育学研究科修士論文.
- 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 数学編理数編, 教育出版.
- 山田篤史・清水紀宏(1997)「数学的問題解決における自己参照的活動に関する研究」, 全国数学教育学会誌数学教育学研究, 第3巻, pp. 47-58.